I-O DATA

MOA-Rシリーズ

4 仮想ディスクを使う

M-MANU200037-01

※Macintosh(Mac OS)は対応外です。

本紙では仮想ディスクの使い方について説明します。
仮想ディスクには以下の2種類があります。
●仮想フロッピーディスク　●仮想CD-ROM

仮想ディスク	[仮想フロッピーディスク]および[仮想CD-ROM]の総称
仮想フロッピーディスク	MOメディア内に作成する仮想的なフロッピーディスク領域のことです。お持ちのフロッピーディスクの内容を仮想フロッピーディスク領域にコピーして使います。MOフォーマットでMOメディアに数十~数百枚の仮想フロッピーディスクを作成するため、お持ちの数十枚~数百枚のフロッピーディスクを1枚のMOメディアに収録できます。
仮想CD-ROM	MOメディア内に作成する仮想的なCD-ROM領域のことです。 お持ちのCD-ROMの内容を仮想CD-ROM領域にコピーして使います。 お持ちの複数枚のCD-ROMを、MOメディアに空きがあるまで1枚のMOメディアに収録できます。
仮想ドライブ	[仮想フロッピーディスクドライブ]および[仮想CD-ROMドライブ]の総称。 仮想ドライブは、本製品の電源投入時(電源スイッチ[ON]時)に、仮想ディスクを挿入していた場合のみ設定されます。
仮想フロッピーディスクドライブ	一般のUSB FDDと同等の機能を提供し、パソコンからも「3.5インチフロッピーディスクドライブ」として認識されます。
仮想CD-ROMドライブ	一般のUSB CD-ROMドライブと同等の機能を提供し、パソコンからもCD-ROMドライブとして認識されます。

仮想ディスクを使うには最初に以下の準備が必要です。
作業はMOモードで行います。

●作業① MOメディアを仮想ディスクとしてフォーマットする(MOフォーマット)

「MOフォーマット」ユーティリティを使って、MOメディアを仮想ディスクとしてフォーマットします。
※「MOフォーマット」は別紙「②セットアップガイド」でインストールしたものです。

●作業② 仮想ディスクへのデータコピー(仮想ディスクライブラリ)

「仮想ディスクライブラリ」ユーティリティを使って、作業①で作成した仮想ディスクにお持ちのフロッピーディスクあるいはCD-ROMの内容をコピーします。
※「仮想ディスクライブラリ」は「サポートソフト(CD-ROM)のCDメニューからインストールします。(CDメニュー→[インストール]→[仮想ディスクライブラリ]をクリック)CDメニューに関しては別紙「②セットアップガイド」の「1インストールする」の個所参照

1 仮想ディスクの準備(MOモードでの作業)

仮想ディスクとしてフォーマットする

MOメディアを仮想ディスク(仮想フロッピーディスク、仮想CD-ROM)として使用する場合は、以下の手順で仮想ディスク形式(仮想フロッピーディスク形式、仮想CD-ROM形式)にフォーマットする必要があります。

注意
●MOメディアに関する注意
■すでにお使いになっていたMOメディアをフォーマットするとデータはすべて消去されます。必要なデータがある場合は、先にハードディスクなどにバックアップしてからフォーマットしてください。
■MOメディアに一部読み書きできない不良セクタができた場合は、そのMOメディアを使用しないでください。

●Windows XP/2000での注意
■コンピュータの管理者(Administrator)権限でログオンしてください。
■コンピュータの管理者グループに属するユーザーのみフォーマットすることができます。制限ユーザーがフォーマットするには、[権限の変更]をご覧になり、権限を[全てのユーザー]に変更してください。
※Windows XPの場合、権限変更はWindows XP Professionalでのみ可能です。
Windows XP Home Editionでは権限変更できません。

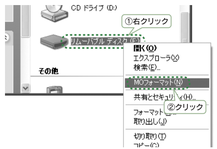
●1枚のMOメディアに仮想フロッピーディスク形式、仮想CD-ROM形式を共存させることはできません。

1 本製品にMOメディアを挿入します。

参考 メディア挿入後、フォーマット画面が起動した場合は、画面を閉じ❷の手順へお進みください。

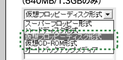
2 [マイコンピュータ]を開きます。
■Windows XPの場合
[スタート]→[マイコンピュータ]の順にクリックします。
■Windows 2000/Me/98(SE含む)の場合
[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。

3 [MOフォーマット]を起動します。
[リムーバブルディスク](または[光磁気ドライブ])アイコンを右クリックし、表示されたメニュー内の[MOフォーマット]をクリックします。



注意 表示されたメニュー内に[MOフォーマット]と[フォーマット]がある場合[MOフォーマット]をクリックしてください。[フォーマット]では仮想ディスクは作成できません。

4 画面のフォーマット設定を設定後、[開始]をクリックします。[フォーマット形式]には、ご利用になる仮想ディスク形式を選択してください。

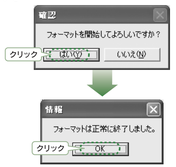
項　目	説　明
メディア情報	挿入したMOメディアの情報が表示されます。 未フォーマットのMOメディアの場合は、[フォーマット形式]や[ファイルシステム]は[不明]と表示されます。
フォーマット形　式	ご利用になる仮想ディスク形式を選択してください。以下の2つから選択できます。 ■仮想フロッピーディスク形式 ■仮想CD-ROMドライブ形式(640MB/1.3GBのみ) 
ファイルシステム	以下の2つから選択できます。 通常は[FAT16]を選択してください。 ■FAT32　■FAT16 参考:Windows 95 OSR2以前では[FAT32]には対応しておりません。
ボリュームラベル	必要に応じて入力してください。
フォーマットオプション	通常チェックする必要はありません。 [物理フォーマット]は、一度フォーマットしたことのあるMOメディアで、その際に一部読み書きできない不良セクタができていた場合にチェックします。

5 以下の画面が表示されます。
設定後、[OK]ボタンをクリックします。
■[仮想フロッピーディスク形式]を選択した場合

■[仮想CD-ROM形式]を選択した場合

仮想フロッピーディスク枚数	MOメディア内に作成する仮想フロッピーディスクの枚数を指定します。 [標準]枚数と[最大]枚数を指定できます。 ※MOメディアの容量によって[標準]と[最大]の枚数は異なります。
オプション	通常チェックする必要はありません。 ■クイックフォーマット 仮想ディスク領域を完全消去する工程を省くことでフォーマットの速度を向上させるオプションです。 ■MO領域のみフォーマット フォーマット設定で選択したファイルシステムでMO領域のみをフォーマットします。 仮想ディスク領域はフォーマットされません。

6 後は画面の指示にしたがってフォーマットしてください。



フォーマットが終了すると、MOメディアが自動的に取り出されます。

以上で、MOメディアはフォーマットされました。

参考 ●フォーマットしたMOメディアは一度[スキャンディスク]をかけることをおすすめします。
[スキャンディスクのかけ方]
①マイコンピュータ上の[リムーバブルディスク](または[光磁気ドライブ])アイコンを右クリックし、表示されたメニューの[プロパティ]をクリックします。
②[ツール]タブをクリックし、[チェックする]ボタンをクリックします。
③[開始]ボタンをクリックします。
スキャンディスクが実行されます。終了するまでお待ちください。

仮想ディスクへデータをコピーする

仮想ディスクとして使用するためにフロッピーディスクやCD-ROMデータを仮想ディスクへコピーします。
仮想ディスクへのデータコピーや削除は[仮想ディスクライブラリ]で行います。

注意
■[仮想ディスクライブラリ]はMOモード時のみ起動できます。仮想ドライブモード時には起動できません。
■[仮想ディスクライブラリ]の詳細については、[仮想ディスクライブラリ ヘルプ]を参照してください。
[仮想ディスクライブラリ ヘルプ]はスタートメニューに登録されています。
[スタート]→[すべてのプログラム](または[プログラム])→[I-O DATA]→[仮想ディスクライブラリ]→[仮想ディスクライブラリ ヘルプ]

1 仮想ディスクとしてフォーマットしたMOメディアを本製品にセットします。
(仮想ディスクがコピー先となります。)

2 コピー元となるディスク(フロッピーディスク、CD-ROM)をセットします。
■仮想フロッピーディスクへコピーする場合
フロッピーディスクドライブにコピー元のフロッピーディスクをセットします。
■仮想CD-ROMへコピーする場合
CD-ROMドライブにコピー元のCD-ROMをセットします。

3 [仮想ディスクライブラリ]を起動します。
[スタート]→[すべてのプログラム](または[プログラム])→[I-O DATA]→[仮想ディスクライブラリ]→[仮想ディスクライブラリ]を順にクリックします。

注意 ●以下の画面が表示された場合

原因1 本製品が接続されていない
対処 本製品をMOモードで接続してください。

原因2 本製品が仮想ドライブモードで接続されている
対処 [仮想ディスクライブラリ]はMOモードでのみ起動できます。本製品をMOモードで接続してください。

4 [仮想ディスクライブラリ]画面でコピー先をクリック後、[FDデータのコピー](または[CDデータのコピー])をクリックします。

●仮想フロッピーディスクの場合
仮想フロッピーディスクのフォーマット時に作成した枚数分までコピーできます。
[状態]が[空き]となっている仮想フロッピーディスクを選択します。[状態]が[2HD]や[2DD]となっている箇所はすでにコピー(書き込み)済みのフロッピーディスクです。コピー(書き込み)済みのフロッピーディスクを選択した場合、上書きとなりますので、ご注意ください。

●仮想CD-ROMの場合
仮想CD-ROM領域の空きがあるまでコピーできます。(コピー毎に、自動的に空きの仮想CD-ROMを追加します。)
※MOの容量も超えることはできません。
[状態]が[空き]となっている仮想CD-ROMを選択します。
[状態]が[CD-ROM]となっている箇所はすでにコピー(書き込み)済みのCD-ROMです。
コピー(書き込み)済みのCD-ROMを選択した場合、上書きとなりますので、ご注意ください。

参考 以下の画面は仮想ディスク領域の表示です。
仮想ディスクライブラリはセットされている仮想ディスクのフォーマット形式(仮想フロッピーディスク、仮想CD-ROM)を判断し、画面を表示します。
そのため、仮想ディスクのフォーマット形式によって画面は異なります。

■仮想フロッピーディスクの場合

注意 [FD1](1番目の仮想フロッピーディスク)には、仮想ディスクから起動した時に表示する[起動メニュー]のデータが格納されています。
[FD1]には書き込み等行わないでください。

■仮想CD-ROMの場合

5 矢印の向き(コピー先とコピー元)を確認後、[コピー開始]をクリックします。
■仮想フロッピーディスクの場合

●仮想フロッピーディスクの場合
仮想フロッピーディスクのフォーマット時に作成した枚数分までコピーできます。
[状態]が[空き]となっている仮想フロッピーディスクを選択します。[状態]が[2HD]や[2DD]となっている箇所はすでにコピー(書き込み)済みのフロッピーディスクです。コピー(書き込み)済みのフロッピーディスクを選択した場合、上書きとなりますので、ご注意ください。

●仮想CD-ROMの場合
仮想CD-ROM領域の空きがあるまでコピーできます。(コピー毎に、自動的に空きの仮想CD-ROMを追加します。)
※MOの容量も超えることはできません。
[状態]が[空き]となっている仮想CD-ROMを選択します。
[状態]が[CD-ROM]となっている箇所はすでにコピー(書き込み)済みのCD-ROMです。
コピー(書き込み)済みのCD-ROMを選択した場合、上書きとなりますので、ご注意ください。

参考 以下の画面は仮想ディスク領域の表示です。
仮想ディスクライブラリはセットされている仮想ディスクのフォーマット形式(仮想フロッピーディスク、仮想CD-ROM)を判断し、画面を表示します。
そのため、仮想ディスクのフォーマット形式によって画面は異なります。

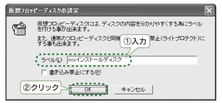
■仮想フロッピーディスクの場合

注意 [FD1](1番目の仮想フロッピーディスク)には、仮想ディスクから起動した時に表示する[起動メニュー]のデータが格納されています。
[FD1]には書き込み等行わないでください。

■仮想CD-ROMの場合

注意 画面の矢印の個所をクリックすると上下の向きが変わりますのでご注意ください。(コピー元とコピー先が反対になります。)仮想CD-ROMの場合はクリックしても向きは変わりません。

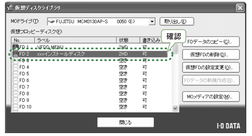
6 ラベル入力画面が表示されます。
入力後、[OK]ボタンをクリックします。



ラベル	わかりやすい名前を入力することをおすすめします。 ※半角256文字、全角128文字まで入力可能
書き込み禁止にする	※仮想フロッピーディスクの場合のみ表示されます。 この仮想フロッピーディスクに書き込みできないようにしたい場合にチェックします。

7 以下の画面が表示されましたら、コピー終了です。
[OK]ボタンをクリックします。
■仮想フロッピーディスクの場合

8 仮想ディスクにコピーできたことを確認します。
■仮想フロッピーディスクの場合



以上で仮想ディスクへのデータコピーが完了しました。

※複数枚のフロッピーディスク、あるいはCD-ROMをコピーする場合は、同様の手順で空いている領域に順にコピーしてください。

仮想ディスクのデータを削除する場合

削除する仮想ディスクをクリック後、[仮想FDの削除](または[仮想CDの削除])で削除できます。
※削除する仮想ディスクは間違えないようご注意ください。

■仮想フロッピーディスクの場合

注意 画面の[FD1](1番目の仮想フロッピーディスク)には、仮想ディスクから起動した時に表示する[起動メニュー]のデータが格納されています。
[FD1]は絶対に削除しないでください。

《仮想CD-ROMの場合》

注意 ●削除した仮想CD-ROM分、空き容量が増えます。複数の仮想CD-ROMを作成している場合には注意が必要です。
■途中の仮想CD-ROM No.の仮想CD-ROMを1つ削除した場合、その No.の個所が[空き]となります。
■途中の仮想CD-ROMと連結したNo.の仮想CD-ROMを削除した場合、その連結した容量分が空きとなり、他の仮想CD-ROM No.が変更されます。
削除する場合は、コピー済みの最後の No.の仮想CD-ROMから削除していくことをおすすめします。

裏へ続く

仮想ディスクについて

仮想ドライブモードで使用するには、仮想ディスクが必要です。
仮想ドライブモードでは、MOメディア上の各仮想ディスク領域を「仮想ドライブに挿入されているディスク」として扱います。

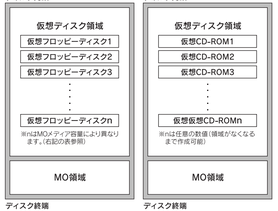
	仮想フロッピーディスク	仮想CD-ROM
使用方法	●仮想FDモードで使用します。 仮想FDモードでは、仮想フロッピーディスクは通常のフロッピーディスクと同じように使用できますので、ファイルの読み書きはもちろん、フォーマットやディスクコピー等も行えます。 ●ライトプロテクトスイッチ[※1]もあります。 ●ラベル[※2]をつけることもできます。	●仮想CDモードで使用します。 仮想CDモードでは、仮想CD-ROMは通常のCD-ROMと同じように使用できますが、仮想CD-ROMへの書き込みはできません。 ●ラベル[※2]をつけることもできます。
フォーマット方法	添付の専用フォーマッタ「MOフォーマット」を使用します。 「フォーマット形式」を「仮想フロッピーディスク形式」に設定して作成します。	添付の専用フォーマッタ「MOフォーマット」を使用します。 「フォーマット形式」を「仮想CD-ROM形式」に設定して作成します。
フォーマット形式	「仮想フロッピーディスク形式」[※3] 仮想フロッピーディスク領域とMO領域があります。 ●仮想フロッピーディスク領域 フロッピーディスクのデータを格納する領域です。 ●MO領域 通常のフォーマットのMOメディアと同等の領域です。この領域には、MOモードの本製品や他のMOドライブからも、通常のフォーマットのMOメディアと同じように読み書きが可能です。	「仮想CD-ROM形式」[※4] 仮想CD-ROM領域とMO領域があります。 ●仮想CD-ROM領域 CD-ROMのデータを格納する領域です。 ●MO領域 通常のフォーマットのMOメディアと同等の領域です。この領域には、MOモードの本製品や他のMOドライブからも、通常のフォーマットのMOメディアと同じように読み書きが可能です。
収録可能メディア[※5]	3.5インチ2HD(1.44MB)、2DD(720KB) ※3.5インチ2HD(1.2MBタイプ)は収録不可	データCD ※音楽CDは収録不可
収録可能枚数	フロッピーディスクを1枚のMOメディアに数十枚～数百枚収録可能です。 収録可能枚数は、フォーマット時に設定します。 ※収録可能枚数はMOメディアサイズによって異なります。 以下の「1枚のMOメディアで作成できる仮想フロッピーディスクの枚数」	CD-ROMを1枚のMOメディアに複数枚収録可能です。 仮想CD-ROM領域の空きがなくなるまで収録可能です。 ※640MBのMOメディアでは約450MB、1.3GBのMOメディアでは約1.0GB、2.3GBのMOメディアでは約2.0GBまでのデータを収録できます。ただし、例えば収録するCD-ROMのデータ容量が450MB以上の場合、640MBのMOメディアに収録することはできません。

※1　仮想FDモードの場合、通常のフロッピーディスクと同様に、ライトプロテクトを設定することができます。ライトプロテクトを設定すると、MOメディアのライトプロテクト状態に関わらず、その仮想フロッピーディスクは書き込み禁止になります。
※2　各仮想ディスクには、後でディスクの使用目的を判別しやすいように「ラベル」を付けることができます。ラベルは、半角256文字、全角128文字までの間で自由に設定することができます。
※3　仮想フロッピーディスク形式の場合、1番目の仮想フロッピーディスクは、「起動メニュー」を表示するための仮想フロッピーディスクが格納される特別な領域です。この領域を使用することはできません。
※4　640MB、1.3GB、2.3GBのMOメディアのみ使用可能です。
※5　著作物も私的使用の範囲を超えた目的で複製することは禁じられています。
複製に関しては、著作物の使用許諾契約に関する注意事項に従ってください。
本製品の使用に際しての複製物については、弊社は一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。

注意　1枚のMOメディアに仮想フロッピーディスク形式、仮想CD-ROM形式を共存させることはできません。

仮想ディスク形式フォーマットのディスクレイアウト(イメージ)

●仮想フロッピーディスク形式の場合　●仮想CD-ROM形式の場合



1枚のMOメディアで作成できる仮想フロッピーディスクの枚数

[MOフォーマット]のフォーマット時に設定します。
[標準]/[最大]のいずれかを設定できます。

MOメディアの容量	標準(枚数)	最大(枚数)
128MB	30	――
230MB	60	80
540MB		230
640MB		200
1.3GB[※1]		490
2.3GB[※2]		940

※1　MOA-UJ640R を除く
※2　MOA-UJ640R, U1.3R を除く

2 仮想ディスクを操作する 仮想ドライブモード

仮想ディスク内のデータの確認・実行、仮想ディスク内のディスク入れ替え操作、また、仮想ディスクからのパソコン起動を行うには仮想ドライブモードで使用します。

仮想ドライブモードに設定する

仮想ドライブモードは、[電源・モードスイッチ]で設定できます。

1 本製品をパソコンから取り外した状態で、[電源・モードスイッチ]を以下のいずれかに設定します。

■仮想フロッピーディスクドライブで使用する場合
→[電源・モードスイッチ]を[FD]
■仮想CD-ROMドライブで使用する場合
→[電源・モードスイッチ]を[CD]

2 本製品をパソコンに接続します。

3 Windows上ではじめて仮想ドライブモードで本製品を接続した場合は、自動的にドライバソフトのインストール作業が行われます。インストールが完了すれば本製品を使用できるようになります。以上で、仮想ドライブモードで使用できます。

■Windows XPの場合
Windows XPにおいて接続するUSBポートがUSB 1.1の場合、本製品を接続すると以下のメッセージが表示されますが、異常ではありません。
×をクリックしてメッセージを閉じてください。

※Windows XP Service Pack 2ではメッセージが異なります。

仮想ドライブモード時のアイコン

Windows上では仮想ドライブモード時は、[マイコンピュータ]に以下のアイコンで表示されます。

●Windows XPでの例

《仮想フロッピーディスクの場合》

《仮想CD-ROMの場合》

※ドライブ名はご使用のOSおよび環境により異なります。

仮想ディスクのセット／取り出し

モードに応じた仮想ディスク形式のMOメディアをセットします。MOメディアを取り出す場合は、本製品前面の[イジェクトボタン]を押して取り出します。

仮想ディスク内のデータの確認・実行

仮想ディスク内の仮想フロッピーディスクデータおよび仮想CD-ROMデータは仮想ドライブモードでのみ確認・実行することができます。

注意　仮想ドライブモード時、MO領域は確認できません。

■起動ドライブとした場合
仮想ドライブから起動したOS上から確認・実行することができます。

■Windows上からの確認・実行
[マイコンピュータ]の仮想ドライブのアイコンをダブルクリックして確認・実行できます。

仮想ディスクを操作する

注意　ここでの操作は、仮想ディスクからパソコンを起動した場合の操作および、Windows上からの操作どちらも共通の基本操作です。

ここでは、仮想ディスクの基本的な操作について説明します。
仮想ドライブモードでは、「現在の仮想ディスク番号」と「開始仮想ディスク番号」の2つの番号を使用して、ディスクの入れ替えを行います。

■現在の仮想ディスク番号:
現在挿入されている仮想ディスクの番号
■開始仮想ディスク番号:
「現在の仮想ディスク番号」を切り換えていく際に、起点となる仮想ディスクの番号

本製品が仮想ドライブモードで起動した時点では、「現在の仮想ディスク番号」と「開始仮想ディスク番号」は共に「1」に設定されています。(1番目の仮想ディスクが「挿入」されている状態です。)

次の仮想ディスクへの移動

1番目から2番目へなど、次の仮想ディスクに移動するには、MOメディアの取り出し・挿入操作で行います。

1 MOメディアを取り出します。
(本製品前面のイジェクトボタンを押します。)

2 取り出したMOメディアを15秒以内に再度セットします。

3 さらに続けて次の仮想ディスクへ移動する場合は、点滅が完全に終了し、消灯していることを確認してから❶❷の操作を行ってください。

以上で、次の仮想ディスクへ移動できます。

注意　15秒以上経過してからMOメディアをセットすると、開始仮想ディスク番号に戻ります。

開始仮想ディスク番号へ戻る

開始仮想ディスク番号へ戻る場合、以下の操作を行います。

1 MOメディアを取り出します。
(本製品前面のイジェクトボタンを押します。)

2 取り出したMOメディアを15秒経過後に再度セットします。

以上で、開始ディスク番号に戻ることができます。

注意　15秒以内にMOメディアをセットすると、次の仮想ディスクに移動します。

現在の仮想ディスク番号と開始仮想ディスク番号をリセットする

以下のいずれかでリセットできます。

■本製品の電源を入れ直す

1 MOメディアを取り出します。
(本製品前面のイジェクトボタンを押します。)

2 本製品をパソコンから取り外します。

注意　Windows上でお使いの場合は、右の[Windows上で本製品を取り外す]を行ってから本製品を取り外してください。

3 一度本製品の電源を切ります。
(電源・モードスイッチ[OFF])

4 お使いになっていた仮想ドライブモードに戻します。
■仮想FDモードで使用時
→[電源・モードスイッチ]を[FD]
■仮想CDモードで使用時
→[電源・モードスイッチ]を[CD]

以上で、現在の仮想ディスク番号と開始仮想ディスク番号をリセットできます。

■別の仮想ディスクのMOメディアを入れ直す

1 MOメディアを取り出します。
(本製品前面のイジェクトボタンを押します。)

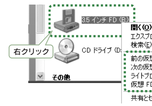
2 別の仮想ディスク形式のMOメディアをセットし、取り出します。

3 元の仮想ディスク形式のMOメディアをセットします。

以上で、現在の仮想ディスク番号と開始仮想ディスク番号をリセットできます。

注意　仮想ディスク内のデータの確認・実行は、仮想ドライブモード時のみ可能です。(仮想ドライブアイコンをダブルクリックしてから確認・実行できます。)

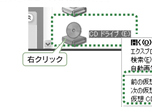
■仮想フロッピーディスクの場合



メニュー	設定内容
前の仮想FD(No.xxxx)	前の仮想フロッピーディスクに切り替えます。
次の仮想FD(No.xxxx)	次の仮想フロッピーディスクに切り替えます。
ライトプロテクトする	現在の仮想フロッピーディスクにライトプロテクトをかけます。
ライトプロテクト解除	※ライトプロテクトがかかっているときに表示されます。 仮想フロッピーディスクにライトプロテクトを解除します。
仮想FD選択	任意の仮想フロッピーディスクに切り替えるメニューを開きます。 任意の仮想フロッピーディスクを選択して[選択]をクリックします。
仮想FDメディア(2HD)を作成	※空の仮想フロッピーディスク時に表示されます。 選択した領域に2HDの仮想フロッピーディスクを作成します。 作成した仮想フロッピーディスクは、フォーマットを行うことで使用できます。

※上記で選択したものが「現在の仮想FD番号」になります。

■仮想CD-ROMの場合



メニュー	設定内容
前の仮想CD(No.xxxx)	前の仮想CD-ROMに切り替えます。
次の仮想CD(No.xxxx)	次の仮想CD-ROMに切り替えます。
仮想CD選択	任意の仮想CD-ROMに切り替えるメニューを開きます。任意の仮想CD-ROMを選択して[選択]をクリックします。

※上記で選択したものが「現在の仮想CD番号」になります。

Windows上で本製品を取り外す

1 本製品前面のイジェクトボタンを押して、MOメディアを取り出します。

2 タスクトレーの[デバイスの取り外し]アイコンをクリックします。
アイコンの表示は以下のとおり、ご使用のOSによって異なります。

■Windows XP
■Windows 2000/Me
■Windows 98

Windows上での仮想ディスクの操作

Windows上からも仮想ディスクを操作することができます。
[マイコンピュータ]（または[エクスプローラ]）で本製品のアイコンを右クリックしたメニューから、仮想ディスクを操作できます。

注意　仮想ディスク内のデータの確認・実行は、仮想ドライブモードでのみ可能です。(仮想ドライブアイコンをダブルクリックしてから確認・実行できます。)

3 出てきた表示をクリックします。
表示内容は、使用している仮想ディスクとご使用のOSによって異なります。

▼Windows XP(仮想フロッピーディスクの場合)での例

▼Windows XP(仮想CD-ROMの場合)での例

4 メッセージを確認して閉じます。
表示内容は、ご使用のOSによって異なります。

▼Windows XP(仮想フロッピーディスクの場合)での例

この状態で本製品をパソコンから取り外すことができます。

仮想ディスクからのパソコン起動

起動できるパソコン

仮想ディスクから起動できるOSプログラムは以下を満たしている必要があります。
※起動に対応しているのは、仮想フロッピーディスクのみです。

パソコンのBIOSがUSB FDDからの起動に対応している

注意
●仮想CD-ROMから起動させることはできません。
●パソコン本体のBIOSが上記条件を満たしている場合でも、BIOS設定が有効でない場合、起動できません。
詳細はパソコンの取扱説明書を参照してください。
●増設したUSBインターフェイスに本製品を接続している場合は、起動できません。
●仮想フロッピーディスクから起動する場合、基本的に仮想フロッピーディスクの1番目のディスク(FD 1)から起動します。
フォーマット時に1番目に起動メニュー表示用データがコピーされています。

仮想フロッピーディスクから起動する

1 パソコンおよび本製品の電源を切ります。
パソコンに接続していたUSBケーブルも取り外します。

2 [電源・モードスイッチ]を[FD]にします。
(仮想FDモード)

3 本製品に仮想フロッピーディスク形式のMOメディアをセットします。
※起動可能なデータ(イメージ)の入っているMOメディアが必要です。

4 本製品をパソコンに接続します。

5 パソコンの電源を入れます。

6 しばらくするとメニュー(Virtual FD Boot Menu)が表示されます。

仮想フロッピーディスクから起動後の操作

仮想フロッピーディスクから起動した場合、以下のメニューが表示されます。

起動メニュー

① No.	② TYPE	③ WP	④ Label
0001:	2HD	W	VFDD_MENU
0002:	NONE	W	(No Image)
0003:	2HD	R	memo
0004:	NONE	W	(No Image)
0005:	NONE	W	(No Image)
0006:	NONE	W	(No Image)
0007:	NONE	W	(No Image)
0008:	NONE	W	(No Image)
0009:	NONE	W	(No Image)
0010:	NONE	W	(No Image)

《メニューについて》

①	No.	仮想フロッピーディスクの番号
②	TYPE	メディアの種類 2HD → 2HDのメディア 2DD → 2DDのメディア NONE → メディアがない
③	WP	ライトプロテクト状態 W → ライトプロテクト無効 (ライトプロテクトがかかっていない) R → ライトプロテクト有効 (ライトプロテクトがかかっている)
④	Label	仮想フロッピーディスクのラベル名 ※メディアがない場合は(No Image)と表示されます。 ※ラベルが全角文字の場合は[――]と表示されます。 ※[VFDD_MENU]は起動メニュー表示用データのラベル名です。

1 ↑↓キーで起動する仮想フロッピーディスクを選択し、[Enter]キーを押します。
[J]キーで、ページを直接入力することもできます。

2 [Would you like to boot from this FD ?]
(このフロッピーディスクから起動してもよろしいですか？)と表示されますので、問題がなければ[Enter]キーを押します。

パソコンが自動的にリセットされ、選択した仮想フロッピーディスクから起動されます。

注意　起動メニューからディスクを選択したドライブのNo.が[開始仮想ディスク番号]に変更されます。
[開始仮想ディスク番号]をリセットするまで、[開始仮想ディスク番号]は変更されません。